

電動車いす

技術力世界が認めた



開発した電動車いすを囲む（左から）湯野さん、森本さん、本山さん、カンさん、タス・スリニヴァサンさん、山下准教授、八代市

熊本高専八代 トップ10に入賞

熊本高専八代キャンパス（八代市）の学生らが開発した電動車いす「スローパー」が、機械工学のアイデアや技術を競う世界大会でトップ10に入賞した。自動運転や障害物を感知して避ける機能が高く評価された。

メンバーは機械知能システム工学科5年のカン・イブラヒマさん（24）、「セネガル出身、本山和輝さん（19）、湯野友貴さん（19）、タス・スリニヴァサン・シリシ・バブさん（20）」インド出身、森本堅太さん（20）。山下准教授が指導した。スローパーは市販の電動車いすに独自の機能を追加。専用タブレットに目的地を設定すると、自動で動き、障害物はセンサーで感知して迂回。運転アシスト機能も付いており、幅の狭いスロープなどもスムーズに上り下りできる。

大会は米国の制御機器メーカー「ナシヨナル・インスツルメンツ」が学生を対象に開催。昨秋、チーム代表のカンさんが4人に声を掛けた。3月に東京であった国内大会で2位に。50以上の大会が参加した世界大会

では資料とビデオで審査があり、スローパーはベスト3は逃したが、トップ10に入った。

「3カ月の短期間で制作したが、まさかトップ10に入るとは」とカンさん。本山さんは「授業だけでは学べない実践的な技術や知識を楽しみながら得られた」と笑顔を見せた。（中村悠）